

E-3 住空間と家具、耐久消費財との関係について
広島女学院大短大 富士田亮子

目的 家庭内で用いる家具、耐久消費財は増加の傾向を示している。が、一定の間取りの決った住宅において、家族の生活機能を十分に発揮できるようにするには、その所有状況、管理等の現状を知ることが住空間の管理上重要と思われる。今回は住空間の管理の改善を目的として、家具、耐久消費財の所有状況に関する調査を行った。

方法 広島市東浄国地1種住宅200家庭を対象にアンケート用紙配布による調査を行った。その内容は家具、耐久消費財の所有の有無、入手の時期、置き場所、室の使い方等である。期間は昭和47年6月。

結果 a) 全家庭で所有しているのは整理ダンス、洋服ダンス、食器棚、鏡台(三面鏡)、食卓、冷蔵庫、テレビ、シンク、ストーブ、電気こたつ類であり、大半が家族全員で共用するものである。

b) 入手の時期は結婚時が多い。その後は子供の出生、学令時期に伴う場合が多い。

c) 大半は住居内で使用しており、各室それぞれに3種前後常置している。